

OYO SUSTAINABILITY VISION 2030

OYO サステナビリティ ビジョン 2030



人と地球の未来にベストアンサーを。
持続可能な社会を実現するために。

「OYO SUSTAINABILITY VISION 2030」作成にあたり

～持続可能な社会を実現するために～

応用地質グループは、人と地球の課題を解決し、持続可能な社会を実現するために、これまで、培ってきた技術資産に新たな創造的技術を加え、安全・安心を技術で支えるサービスを展開してきました。

これからも「サステナブル経営」を推進し、応用地質グループの持つ多様な経営資源を最大限に活用することで、近年ますます多様化する地球規模の社会課題へ対応いたします。

そこで応用地質グループは、SDGs最終年の2030年における人と地球の未来に対する社会課題を抽出し、私たちが取り組むべきことを明確にするために「OYO SUSTAINABILITY VISION 2030」を策定いたしました。

PHILOSOPHY

経営理念

人と自然の調和を図るとともに
安全と安心を技術で支え
社業の発展を通じて社会に貢献する

VISION

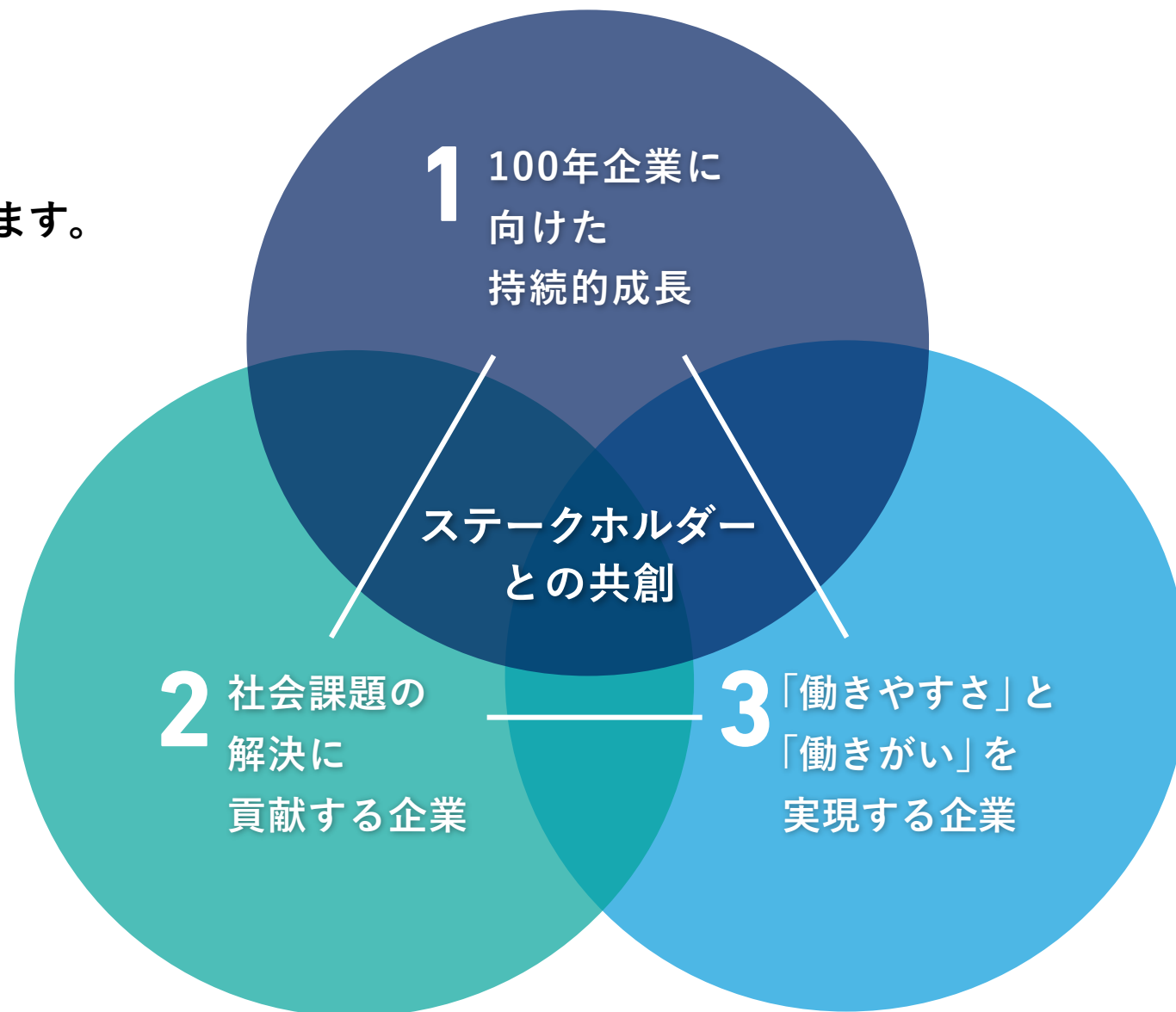
経営ビジョン

人と地球の未来にベストアンサーを。
～ 持続可能な社会を実現するために。～

私たち応用地質グループは、
地球科学に基づく深い知見と豊富なデータ、
さらにはデジタル技術のイノベーションを通じて、
困難な課題の最適解に迫ります。
誰ひとり取り残さないように。

2030年のありたい姿

ベストアンサーで
社会・環境価値と事業収益を向上させ、
持続可能な社会の実現に貢献していきます。



2030年のありたい姿

1 100年企業に向けた持続的成長

2 社会課題の解決に貢献する企業

3 「働きやすさ」と「働きがい」を実現する企業

財務目標 2030年	
売上高	1,000 億円以上
営業利益率	10 %以上
ROE	8 %以上

サステナビリティ目標 2030年	
GHG排出量 (Scope 1、2) ※	実質ゼロ
女性管理職割合	15 %以上
従業員エンゲージメントスコア	70 ポイント以上
労働災害による死亡事故	ゼロ

※GHG：温室効果ガス (Green House Gas)
 Scope 1：自社での燃料の使用や、工業プロセスによる直接的な排出
 Scope 2：自社が購入した電気・熱等のエネルギーの使用に伴う間接的な排出

MATERIALITY

マテリアリティ（重要課題）

時代とともに変化する社会課題は、
応用地質グループにとって事業を脅かすリスクとなり得るが、
同時に新たな事業機会になると捉えています。
SDGsや社会課題への貢献、
経営ビジョンや2030年のありたい姿の実現に向けて、
2021年にマテリアリティを特定しました。
サステナビリティ推進委員会で議論を重ね、
マテリアリティに対する取り組みについて整理しました。



事業活動における マテリアリティ

事業機会の対応として、
事業収益の向上につながる取り組み







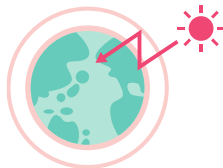

- 1 スマートな社会インフラの整備
- 2 自然災害の被害軽減とレジリエントなまちづくり
- 3 脱炭素社会、持続可能な循環型社会の形成
- 4 豊かな自然共生社会の実現

経営基盤となる組織活動における マテリアリティ







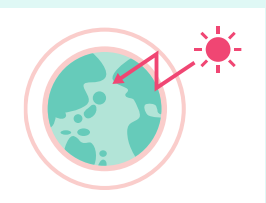

リスクの対応として、
社会・環境価値向上につながる取り組み

- 5 脱炭素への取り組み
- 6 人的資本活性化による価値創造
- 7 技術革新による価値創造
- 8 コンプライアンスの徹底











1 スマートな社会インフラの整備

当社グループが対応できる社会課題	応用地質グループが貢献できること	関連するSDGs
 <p>社会インフラの老朽化 老朽化が顕著な高度成長期の社会インフラの修繕や補修の遅れ</p>	<p>社会インフラ構造物のメンテナンスにかかわる 業務支援・長寿命化サービス</p>	
 <p>労働力の不足 生産年齢人口の減少に伴う日常的な点検回数の減少に伴い、社会インフラの不具合箇所の見落とし</p>	<p>社会インフラ構造物のメンテナンスの 生産性向上サービス</p>	
 <p>情報消失・不足・低品質 資料、紙図面などのインフラ整備に関する情報が紛失、欠如し、地盤リスク事故・災害の発生</p>	<p>社会インフラ情報、地下に潜むリスクの データベース化</p>	
 <p>気候変動の危機意識の低さ 気候関連財務情報開示を企業に要求</p>	<p>地質調査技術の 自動化と脱炭素化の実施</p>	

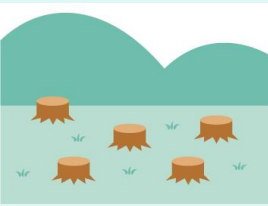



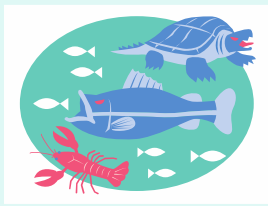

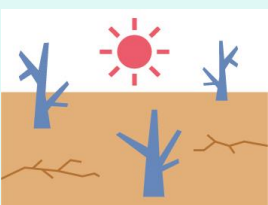

2 自然災害の被害軽減とレジリエントなまちづくり

当社グループが対応できる社会課題	応用地質グループが貢献できること	関連するSDGs
 <p>自然災害の激甚化、頻発化 気候変動の影響により、気象災害の巨大化・頻発化 大規模地震・津波の発生の可能性の増加</p>	<p>➔ 自然災害の被害軽減対策支援</p>	
 <p>防災施設の老朽化・通信障害 老朽化した高度成長期の防災施設の修繕や補修の遅れ</p>	<p>➔ 防災施設・拠点の再整備支援</p>	
 <p>防災意識の希薄化 防災対策の取り組みを行った人の割合は半数以下で、防災意識の希薄化</p>	<p>➔ レジリエントなまちづくり支援</p>	
 <p>気候変動の危機意識の低さ 気候関連財務情報開示を企業に要求</p>	<p>➔ 企業の自然災害リスク対応支援</p>	

3 脱炭素社会、持続可能な循環型社会の形成

当社グループが対応できる社会課題	応用地質グループが貢献できること	関連するSDGs
 <p>気候変動問題 気候変動の影響により、気象災害の巨大化・頻発化</p>	<p>再生可能エネルギー 主力電力化への移行 GHG吸収</p>	
 <p>エネルギー供給不足 自然災害の激甚化に伴い、大規模停電が頻発化し、集中型エネルギーシステムの脆弱性が顕在化</p>	<p>地域分散型の 再生可能エネルギーの形成</p>	
 <p>有害化学物質の使用による環境影響 有害物質の不適切な扱いや施設からの排水・漏水などにより、土壌汚染や地下水汚染の発生</p>	<p>土壌・地下水汚染の事前察知、健全化で 健康被害防止と土地活用活性化</p>	
 <p>自然災害の激甚化、頻発化 気候変動の影響により、気象災害の巨大化・頻発化 大規模地震・津波の発生の可能性の増加</p>	<p>自然災害に脆弱な国土を守り 持続可能な循環社会を実現</p>	
 <p>地球環境の限界 少子高齢化等に伴う地域社会の弱体化、社会経済情勢の変化</p>	<p>地域性を生かした 地域循環共生圏の構築</p>	

4 豊かな自然共生社会の実現

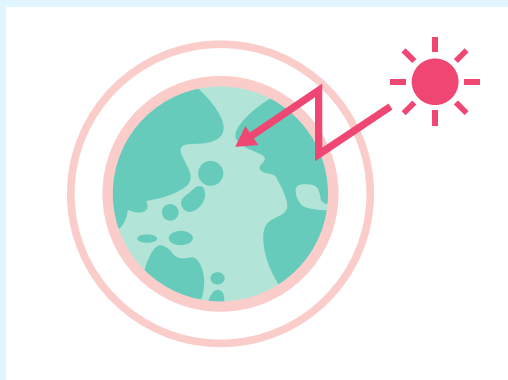
当社グループが対応できる社会課題	応用地質グループが貢献できること	関連するSDGs
 <p>開発など人間活動 森林を切り拓いたり、山を切り崩すなどの自然を改変する人間活動による生態系の崩壊</p>	<p>→</p> <p>自然生態系の保全と再生</p>	
 <p>自然に対する働きかけの縮小 管理が行われなくなった里地里山の生態系の危機的状況</p>	<p>→</p> <p>自然と人間活動との共生</p>	
 <p>人間により持ち込まれたもの 外来生物により、在来生物との交雑や捕食による生態系への悪影響、農作物への被害などを発生</p>	<p>→</p> <p>特定外来生物・化学汚染の対策・防除</p>	
 <p>地球環境の変化 地球温暖化や砂漠化などの地球環境の変化は、生物の分布域や生息密度の変化などを引き起こす</p>	<p>→</p> <p>生態系を活用した防災・減災への対応</p>	

5 脱炭素への取り組み

社会から求められること

気候変動対策

気候関連財務情報開示を
企業に要求



応用地質グループが目指すこと

- GHG排出量の削減、環境負荷を低減する
- 2030年までにScope1および2を
実質ゼロにする
- 気候変動関連のリスクの対応、
機会の展開、財務インパクトの
削減を行う

関連するSDGs



6 人的資本活性化による価値創造

社会から求められること

多彩な人材が能力を
発揮できる企業文化を育み、
変化に強い
社員・企業を実現



応用地質グループが目指すこと

- 社会課題の解決に挑戦する多彩な人材が集う企業を実現する
- 多彩な人材が能力を発揮できる環境を推進する
- 「働きやすさ」と「働きがい」を目指した人的資本経営に取り組む
- 全てのステークホルダーの人権が尊重される環境を構築・維持する

関連するSDGs



7 技術革新による価値創造

社会から求められること

新たな技術により
新規事業の創出、
革新的なサービスを提供し、
社会課題を解決







応用地質グループが目指すこと

- 未来につながる技術革新を推進する
- 社内開発だけではなく、M&A、国内外の機関とのアライアンスにより技術革新を加速する
- 知的財産を含む無形資産の活用による技術革新を実現し、価値創造につなげる

関連するSDGs



8 コンプライアンスの徹底

社会から求められること	応用地質グループが目指すこと	関連するSDGs
<p>企業価値の持続的な向上を実現するための公正で透明性の高い、誠実な経営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員が倫理的に行動できる環境づくり、企業倫理・コンプライアンス文化を構築する ● 「社会から信頼され、安心・安全で持続可能な社会の構築に貢献する企業」を目指す ● 経営に関わるリスク、情報セキュリティ、個人情報の適切な管理を行い、インシデント発生防止に努める 	  

応用地質グループは
事業を通じて社会に貢献し、
「働きやすさ」と「働きがい」を
実現する企業を目指します。

